

レセプト情報・特定健診等情報データベース(NDB): 血友病等患者の全国分布

明神 大也

背景と目的

- 「標準的治療」として多くの疾病にガイドラインが整備されているが、施設間や地域によって実施率が異なることが指摘されている。
- 本研究では、既存調査により全国の患者数がおおむね把握され、標準的治療の全国均てん化への社会的な要望が高いと判断された血液凝固異常症（血友病、von Willebrand病等40疾患）を対象とした。
- レセプト情報・特定健診等情報データベース（NDB）を用いて、血液凝固異常症の患者数や血液製剤使用量、HIV合併率を性差、地域差など詳細に把握する。

2

背景と目的

NDBの得意・不得意を把握するため、以下の4疾病で患者数や薬剤使用量の算出を試みている

- 糖尿病：疾患としての多様性が小さく、全国症例登録システムが存在しない
- 透析：患者の追跡可能性が高く、患者数が多い
- 血液凝固異常症：患者の追跡可能性が高く、患者数が少ない
- 高次脳機能障害：患者を特定するのが難しそうな希少疾患

3

用いたデータ

- 平成25年4月から平成26年3月のレセプト情報・特定健診等情報データベース（NDB）
- 名寄せにはID1を使用した

4

方法① 血液凝固異常症患者数の把握

- 血液凝固異常症（血友病、von Willebrand病等40疾患）の患者数を把握する
- 抽出条件は以下の通り
 - 血液凝固異常症の病名がついている

5

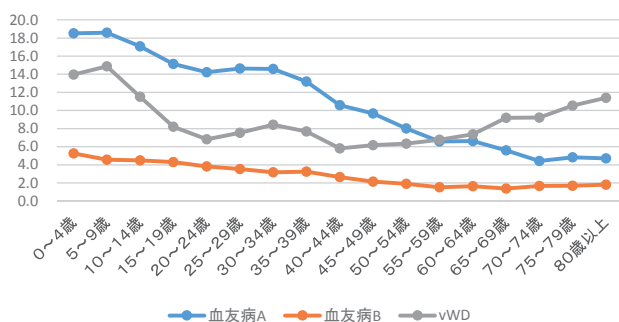
結果① 男女別患者数

	血友病A	血友病B	vWD
男性	5,463	1,353	2,196
女性	515	226	2,894
総数	5,978	1,579	5,090

6

結果① 年齢階級別有病率

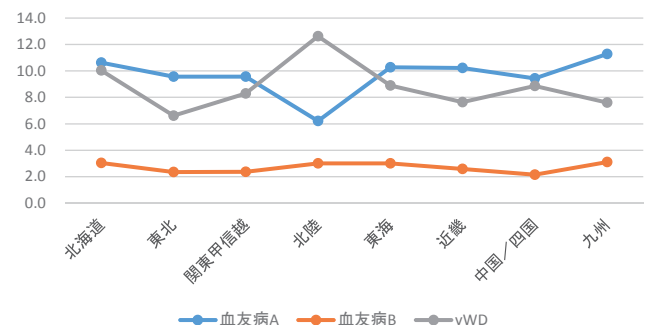
人口10万対 年齢階級別有病率(患者数/男性人口)



7

結果① 地域別有病率

人口10万対 地域別有病率(患者数/男性人口)



8

方法② 薬剤使用量の把握

- 投薬された血液製剤ごとの使用量を把握する
- 抽出条件は以下の通り
 - 血液凝固異常症の病名がついている
 - 血液製剤(14種類58製剤)を使用している
- さらに、2014年4月改定の薬価でコストを算出した

9

結果② 血液製剤別使用量(薬価換算・100万円)

製剤名	メーカー	total	血友病A	血友病B	vWD
PPSB(第IX因子)	日本製薬	¥79	¥0	¥54	¥0
クリスマシン(第IX因子)	日本血液製剤機構	¥24	¥0	¥24	¥0
クロスエイト(第VIII因子)	日本血液製剤機構	¥1,835	¥1,705	¥21	¥4
コージネイト(第VIII因子)	バイエル	¥10,638	¥10,031	¥14	¥31
コンファクト(第VIII因子)	アステラス	¥734	¥389	¥2	¥342
ノバクト(第IX因子)	アステラス	¥1,200	¥6	¥1,169	¥3
ノボセブン(第VII因子)	ノボ	¥7,015	¥4,125	¥1,363	¥153
ベネフィクス(第IX因子)	ファイザー	¥4,576	¥0	¥4,386	¥6
合計		¥26,100	¥16,256	¥7,032	¥539

1人当たり・・・ 272万 445万 11万

10

方法③ HIV合併患者数の把握

- HIVを合併している血液凝固異常症(血友病、von Willebrand病等40疾患)の患者数を把握する
- 抽出条件は以下の通り
 - 血液凝固異常症の病名がついている
 - 抗HIV薬が処方されている

11

結果③ HIV合併患者数

	血友病A	血友病B	vWD
総数	475	145	21
男性	468	145	+++
女性	+++	***	***
北海道	28	***	***
東北	44	***	***
関東甲信越	218	66	***
北陸	***	***	***
東海	30	16	***
近畿	67	23	***
中国四国	24	***	***
九州沖縄	79	17	***

12

考察 ～血液凝固異常症全国調査との比較～

血液凝固異常症の患者数

	全国調査			本研究		
	血友病A	血友病B	vWD	血友病A	血友病B	vWD
北海道	220	49	47	272	78	257
東北	374	76	40	418	103	289
関東	1635	373	445	2275	562	1974
甲信越	211	32	38			
北陸	77	19	4	91	44	185
中部	559	136	111	764	224	662
近畿	817	172	236	1021	258	763
中国	257	35	50	512	117	481
四国	145	20	59			
九州沖縄	575	122	99	774	213	521
合計	4870	1034	1129	5978	1579	5090

本研究のほうが、血友病Aでは2割、血友病Bでは5割、vWDでは4倍程度多い

13

考察 ～血液凝固異常症全国調査との比較～

HIV合併血液凝固異常症の患者数

	全国調査			本研究		
	血友病A	血友病B	vWD	血友病A	血友病B	vWD
北海道	34	5	0	28	***	***
東北	49	8	1	44	***	***
関東	218	70	3	218	66	***
甲信越	7	7	0			
北陸	8	4	0	***	***	***
中部	39	19	1	30	16	***
近畿	79	27	0	67	23	***
中国	32	7	0	24	***	***
四国	8	2	0			
九州沖縄	83	19	2	79	17	***
合計	557	168	7	475	145	21

本研究のほうが1～2割程度少ない

14

考察

- 全国調査は1,278施設へ調査票を送付し担当医が回答する方式をとっている。少なくとも静岡県の主要施設が協力施設になっておらず、**全患者を網羅できているかは疑問がある。**
- 本研究では疑い病名も入っており、**ID1の重複カウントがあるため、本研究の患者数は実患者数より多くなっている可能性がある。**
- 血液製剤使用量は2013年度時点だが、その後も新たな製剤が上市しており、最新データで行うとまた異なる結果が出る可能性がある。

15

結論

- 本研究では、NDBを用いて血液凝固異常症の患者数把握を行った。
- 本研究でも全国調査に準ずる結果となった。

16

本研究は

平成28年度厚生労働科学研究費補助金（厚生労働科学特別研究）
「NDB・DPCデータを用いた循環器・血液領域の医療の質の評価に関する研究（H28-特別-指定-035）」

の一環として実施したものである

ご清聴ありがとうございました